

すこやか

第22号

平成24年5月
発行岐阜県総合医療センター
地域医療連携センター部

小児医療センターの挑戦

岐阜県総合医療センター 副院長
小児医療センター長 桑原 尚志



人口減少、出生率の低下に伴い、小児の人口そのものは減少傾向にありながら、小児救急医療の現場において小児の受診数は増加の一途です。大切なこどもを小児科専門医に診て欲しいとの要望は強くなる一方です。この問題と児童虐待の問題は、一見逆にみえますが、核家族やご近所の崩壊がベースにあり、基本的に同じ問題かもしれません。また最近の子育て世代は、時間的にも経済的にも本当に余裕がないことが診察室において強く感じられます。時間的な余裕のなさが小児救急患者の急増に、経済的な余裕のなさが児童虐待に連鎖しているようにも思われます。このような余裕のない世代のもとに育つこどもたちの、総合的な健康を保つことが私たちの目指す方向です。

すでに新聞等で公表されているように、当院は数年後に小児集中治療室6床、超重症心身障がい児病棟30床

を順次開設し、将来的には小児病院と同等の機能を果たすことを目標にしています。また新生児医療、胎児医療を介して総合周産期医療センターの機能もサポートする所存です。計画中の新病棟は6階建てとなり、広い小児専用外来(2F)と、重症心身障がい児病棟(3F・4F)を含めた小児医療センター(仮称)となる予定です。

さて、平成13年に病診連携センターが設置されてから10余が経過しましたが、最近の統計では平成18年の紹介率27.4%・逆紹介率28.8%から平成22年度61.5%・74.3%へと年々増加しています。これはひとえに皆様のご支援の賜物であり深く御礼申し上げます。また小児部門も同様に、県内外から多くの患者をご紹介いただきおり感謝の念に堪えません。岐阜近郊のこどもたちの「すこやか」な成長を願って、私たちは地域の皆様とともに努力をし続けることをお約束申しあげます。

新病棟の階別構成

RF 塔屋	
6F 外来化学療法部門	
5F 小児管理部門	
4F 重症心身障がい児病棟	
3F 重症心身障がい児病棟	
2F 小児科系外来部門	
通路	1F 画像診断部門・専門ドック・保育所など

本館通路
本館通路

各階別面積表

RF 塔屋	100m ² 程度
6F 外来化学療法部門	850m ² 程度
5F 小児管理部門	850m ² 程度
4F 重症心身障がい児病棟	900m ² 程度
3F 重症心身障がい児病棟	900m ² 程度
2F 小児科系外来部門	900m ² 程度
1F 画像診断部門・専門ドック・保育所など	800m ² 程度
合 計	5,300m ² 程度

連携医の紹介

近藤ゆか耳鼻咽喉科

県総合医療センターの先生方、コメディカルの皆様、近隣の開業医の先生方には日頃から大変お世話になり誠に有難うございます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

当院は県総合医療センターの北東1kmにあります。生まれ育った所で地域医療をしたいと思い、平成13年1月野一色に耳鼻咽喉科を開業しました。子供達の診療をしていると、長森北小学校、長森中学校時代をなつかしく思い出します。

当院では待ち時間を減らすために電話で診療の順番がとれる予約システムを導入していますが、私は勤務医の頃から診療が遅く、患者さんをお待たせすることがあり申し訳なく思っています。

岐阜大学耳鼻咽喉科では、時田喬教授、宮田英雄教授のもと、厳しく時に優しくめまい・平衡を学ばせていただきました。めまいに関しては、赤外線CCDカメラによる眼振検査、温度刺激検査、重心動搖検査、自律神経検査などの平衡機能検査を行っています。その他、アレルギー性鼻炎に対するレーザー治療、顔面神経麻痺、突発性難聴、耳鳴などに対するスーパーライザー治療、いびき・無呼吸に対する簡易睡眠ポリグラフィー検査、



近藤ゆか耳鼻咽喉科院長 近藤由香



補聴器がタンスの肥やしにならないよう補聴器相談を行っています。また、禁煙外来を始めました。喉頭がんがないか診てほしいと来院した患者さん、電子内視鏡(NBI)にて診察し、がんはないですよと説明、「じゃあまた心置きなくタバコが吸える」この言葉がきっかけでした。

いま、診療で頭を悩ませているのは、薬をいかにきちんと服用していただかかです。

「のどがまだ痛い!」「お薬は飲まれましたか?」「飲まんかった、内科の薬と飲んでいいか心配やったで」「一緒に飲める薬とお話ししましたが」「そうなんやけど先生に聞かんと心配」「では私がお聞きしてみますね」(いつもお忙しい中突然お電話をしまして申し訳ありません)「一緒に飲んでいいそうですよ」「なら安心して飲める」私の力不足を痛感します。

「お薬は飲まれましたか?」「飲んだよ、でも薬の数が2個増えたで、薬多なってまうでよその薬を2個減らした」「えっ何を減らしたのですか?」「これとこれ」私が青ざめます。

「中耳炎の治りが悪いです、この薬でもう少し効くはずなんですが、鼓膜切開が必要になるかもしれません」お母さんが小声で、「実はきちんと薬飲ませてなかったんです、夜寝てしまったり、朝ばたばたして飲ませ忘れたり…」「今回はちゃんと飲ませました!」「中耳炎は治っていますよ」驚くことがあります。薬の説明に時間をかけています。

最後になりましたが、当院が診療できるのは、病診連携をしていただいているおかげと感謝しております。微力ながら地域医療に貢献できるよう、スタッフと共になお一層努力したいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

診療科の紹介

救急外科

救急外科は昨年9月に、消化器外科医2名により発足した新しい科です。救命救急センターに属しています。標榜の「救急外科」は「救急+外科」、すなわち緊急手術を要する外傷患者や緊急手術の適応となる内因性疾患患者に外科治療を施すことを目標にしています。いわゆるAcute Care Surgeryも守備範囲に入ります。いまのところ、外科系救急当番(初療係)と救急外来のマネージメントを担当するに留まっております。

具体的な業務内容は、

1. 救急車で搬送される患者のうち、外科系傷病者の初療を担当する
 - ・現場から直接要請のあったもの
 - ・医療機関からの転院搬送
2. 救急外来受診患者のうち、外科系傷病者の初療を担当する
3. 1.2.の患者について、専門科へのコンサルトの要否を判断する
 - ・各専門科に依頼して診断・治療していただく



救急外科部長 安村 幹央

- ・軽症者は診断・治療後、帰宅していただく
 - ・軽症者あるいは専門科で入院適応なしと判断された患者でも、帰宅困難な患者の受け入れ先を探す
 - 4. 転院搬送の適応を判断し、場合により救急車両に同乗する。
- といったところです。研修医、救急救命士らの教育にも携わります。今年度から、救命救急センターに研修医が常時配置されますので、直接の診療活動に加えて、教育的な役割が一層求められることになりそうです。救急外科をよろしくお願い申し上げます。

総合麻酔センター

総合麻酔センター長兼ペインクリニック室長 笠松 雅之

総合麻酔センター長の笠松です。さて、当院麻酔科はもう長い年月にわたり活躍しているのに、「総合」麻酔センターって何?と思われる方も多いのではないかでしょうか?このネーミングは(将来変わる可能性もありますが)、麻酔科の目指す方向をあらわしています。

麻酔科医は、人工呼吸を始めとして術中の全身管理を毎日行っています。手術中の刻々と変わる病態に対応するすべを身につけた麻酔科医は集中治療にもっとも近い位置にいます。鎮痛に関する知見を豊富に持つ麻酔科医はペインクリニックという分野を開拓しました。

手術中の麻酔業務だけではなく、集中治療・救急医療やペインクリニックを含めた総合的な診療科へと発展すべく「総合麻酔センター」と名付けられたのです。

総合麻酔センターの第1弾として、この4月から麻酔科・周術期外来・痛みの外来を開設いたします。岐阜大学麻酔・疼痛制御学講座飯田宏樹教授にその嚆矢を放っていただけました。飯田先生には隔週火曜日に担当していただきます。痛みの外来開設日は週

一回程度からスタートします。ささやかな第一歩ですが、順次増やしていくと思います。また、従来は麻酔科医が病室に出向いておこなっていた術前診察も麻酔科外来で行うことも可能になります。「じっくり麻酔科医からの説明を聞きたい」「病室では話がしづらい」という場合にも対応できるようになります。術前検査結果がそろった時点で麻酔科外来での術前診察を受けていただくことにより、当日入院当日手術が可能になる場合があります。ご相談ください。





専門外来のお知らせ

主任部長 兼 内科部長・外来部長
飯田真美

当センターでは、臓器別に受診科を選択していただく以外に、患者さんの利便性を考慮し、症状（主訴）から窓口を1つにしづらり、関連科が協力して診断し、最も適切な治療を提供することを目的に「専門外来」を開設しています。診療科と診療科の境界領域の症状である場合も円滑に受診していただけます。

現在開設している専門外来には次のようなものがあり、病診連携で患者さんをご紹介いただけております。

もの忘れ外来①、頭痛外来②、脚外来③、禁煙外来④、女性外来⑤、漢方外来⑥、睡眠時無呼吸外来⑦、不眠外来、緩和ケア外来⑧、不整脈外来、ペースメーカー外来、膠原病・リウマチ内科外来、腹膜透析外来、メタボリック外来⑨、肥満外来⑩、糖尿病フットケア外来⑪、糖尿病生活指導外来⑫、整形外科専門外来（脊椎外来、リウマチ外来、手の外科外来）、小児専門外来（アレルギー外来、脳波外来、発達外来、神経外来、腎・肝外来）、顎関節外来⑬、皮膚学童外来

① 内科・総合診療科、循環器内科、精神科が連携して頭部MRI、脳血流シンチ、臨床心理士による詳細な認知機能検査などから早期の認知症を診断し、治療に繋げます。
<火曜午後>

② 慢性の頭痛を訴える患者さんには、脳神経外科疾患、循環器疾患、耳鼻科・眼科・歯科口腔外科疾患なども隠れている場合があり、原因をスクリーニングし適切な治療に繋げます。
<木曜午後>

③ 脚の痛み、冷感、創傷治癒不良などの症状から血行障害をはじめとする原因を精査し治療に繋げます。
<金曜日午前>

④ 禁煙希望者が対象です。当院は禁煙治療保険診療施設になっています。
<水曜午後>

⑤ 女性特有の病気や心身の不調を訴える患者さんにに対して女性専任医師が行っています。
<水曜・金曜午前>

⑥ 東洋医学診断法を用い、漢方薬を駆使して治療します。女性だけでなく男性、小児も対象です。
<金曜午後>

⑦ いびきが大きい、眠っている時に呼吸が止まる、昼間とても眠いなどの症状から終夜ポリグラフィー検査を行い診断治療に繋げます。
<月～金曜午前>

⑧ がんに関する苦痛となる身体精神症状の相談治療を行います。認定看護師、専門薬剤師、臨床心理士もサポートします。
<月曜午後、木曜>

⑨ 認定看護師による看護外来と協同しています。また管理栄養士や理学療法士が生活習慣改善（栄養・運動）を指導し、実践していただきます。

⑩ 顎関節が痛む・鳴る、口が大きく開かない方が対象です。顎関節造影検査などで診断し、適切な治療を行います。
<月～金曜午前>

近々「痛み外来（麻酔科）」「むくみ外来」「成人先天性心疾患外来」なども開設予定で、今後も患者さんのニーズと受診しやすさを考慮していきたいと考えています。ご紹介いただける場合は、地域医療連携センター部にご連絡ください。

